

参考事例 『みなさんから、アレコレ事例』（注：各務原市のことではありません）

◆**Aさん**は絵手紙のサークルに参加していたが、もの忘れが見られるようになってきた。仲間たちが「長年の付き合いだから」と、フォローして何とか一緒にサークル活動を続けていた。ところが要介護認定をして、デイサービスに行くようになると、仲間たちは「これで安心やね」と言い、サークルのお迎えも来なくなり、友人同士の付き合いがなくなった。結局デイサービスも「行きたくない」と言われ、家に閉じこもるようになった。

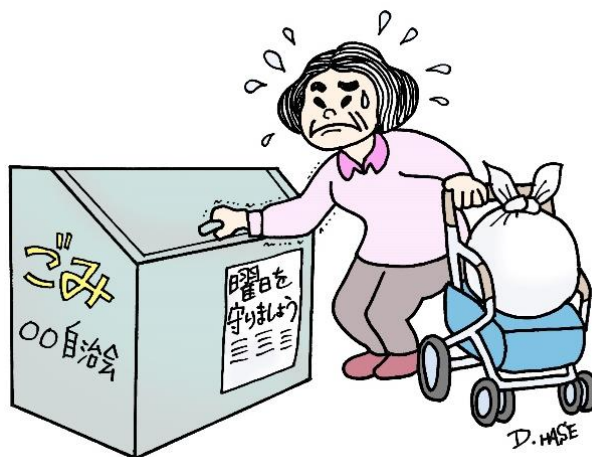
◆**Bさん**は友人たちと毎年旅行に出かけていたが、足腰が弱ってきて、昨年の旅行ではお寺の敷居を越えるだけでも「往生こいた」と友人。友人たちは「私ら自分も大変なのに、人の介護までできない」「楽しみのために旅行に行ってるのに、人のお世話なんかしたくない」と言われ、今年の旅行は声がかからなかった。その後、友人たちもヤラシイのか、モーニングにも誘われなくなった。

◆**Cさん**は一人暮らし。季節の変わり目に“よしず”を片付けてもらおうとヘルパーさんに頼んだところ、「そういうことは介護保険ではできない」と言われた。ワンコインで頼めるシルバー人材センターのサービスを頼んだら、

- ①「お宅の地域は行ける人がいない」と言われた。
- ②私より年上の、80歳すぎの人が来て、「そんな重いものは運べない」と言われた。

◆**Dさん**は一人暮らし。ごみを自分で出せないなので、内緒でヘルパーさんに持って行ってもらっている。ヘルパーさんは自分のところを出しているようだ。ありがたいけど、申し訳ない。

◆**Eさん**は一人暮らし。シルバーカーにごみを載せて、ゴミステーションまで何とか自分で持って行くが、ゴミ収集箱が金属製で、フタが重くて、しかもサビ付いていて、開けられない。



◆友人たちと話していると、いつも同じ話になる。「今はまだいいけど、運転免許を返したら、近くにお店もないし、買い物に行けない。病院にもどこにも行けなくなる。バスはちょうど良いコースがないし、時間がかかる。タクシーはお金がかかる。どうなるんだろうね。」

◆Fさんは高齢夫婦。介護サービスを使わずに何とか自分たち2人で生活していたが、自治会から神社の係が回ってきた。「2人とも体がフラフラでできない」と断ったが、「介護が必要な状態ならやれなくても仕方がないが、そうじゃないならやってもらわないといけない。みんな一緒だから」と言われ、断れない。

◆Gさんは要介護認定「非該当」。基本チェックリストで「事業対象者」と認定され、デイサービスで歩行練習などの機能訓練を行っている。ご本人も意欲的で、「もっと行きたい。週に2回か3回は行かないと、運動の効果が薄いような気がする」と言われるが、回数制限があり、行けない。

◆Hさんは呼吸器の病気があり、いつも酸素を吸っている。「自分のことは自分でやらなきゃ」と、がんばって生活しているが、少しでも動くとエラくなってしまふ。これからも自分のことを自分でやるために、手すりをつけようと要介護認定を申請したが、「非該当」になった。



◆Iさんは一人ぐらし。少し心が不安定で医者にもかかっており、自分だけでは生活を形作ることが難しい。「要介護」の認定で、定期巡回サービスを毎日利用して、服薬や食事など、生活全般をみて、やっと生活が安定してきたが、要介護認定更新で「要支援」になった。「要支援」は定期巡回サービスを利用できない。

◆町でサロンをやっていたが、自分たちが高齢になって大変だし、後継者もないので、残念だがやめることになった。参加者のみなさんは「来月から行くところがない」と言われている。